

こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり、有田市の良さを伝えてくれます。

今回のこども特派員は、
箕島小学校6年生の(左から)杉野那奈さん、田中真由さん、安本翔洋さん、
弓中大士さん、鹿嶋哲稔さんです。

※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。



夜泣き石の伝説

今のような堤防がない頃、満潮になって海の水が有田川に入り込んでくると、今の箕島あたりは、まるで海の中の島のような状態になったそうです。その島が、昔、雨を防ぐために服の上からまとったというワラで編んだ「蓑」の形をしていたことから、「蓑(箕)島」という地名になったという説があるそうです。

昔、赤ちゃんが生まれたばかりの夫婦がいました。ところが、ある日、お父さんが山賊におそわれて亡くなつてしまいました。その後、赤ちゃんは毎晩激しく夜泣きをするようになったので、お母さんは赤ちゃんを抱いて、箕嶋神社へ夜泣きがなくなるようにお百度参りに行ったそうです。その最後のお参りのときに、亡くなったお父さんの声が聞こえてきました。赤ちゃんを抱いたお母さんがその声をたどって行くと、ある石にたどり着きました。石の上には、なんと、亡くなったお父さんがいたそうです。お母さんはそこで気絶してしまいました。気がつくとお母さんは、石の上で赤ちゃんを抱いて倒れていました。不思議なことに、その日からその赤ちゃんの夜泣きが



ゼミメンバー

「箕島」の由来

わたしたち六年生は、社会科の学習で日本の歴史を学びました。でも、自分たちの住んでいる「箕島の歴史」については、あまり知りませんでした。そこで、有田市の歴史に詳しい副市長の成川満さんに、箕島の歴史について話をもらいました。



成川 満さん

箕島の歴史

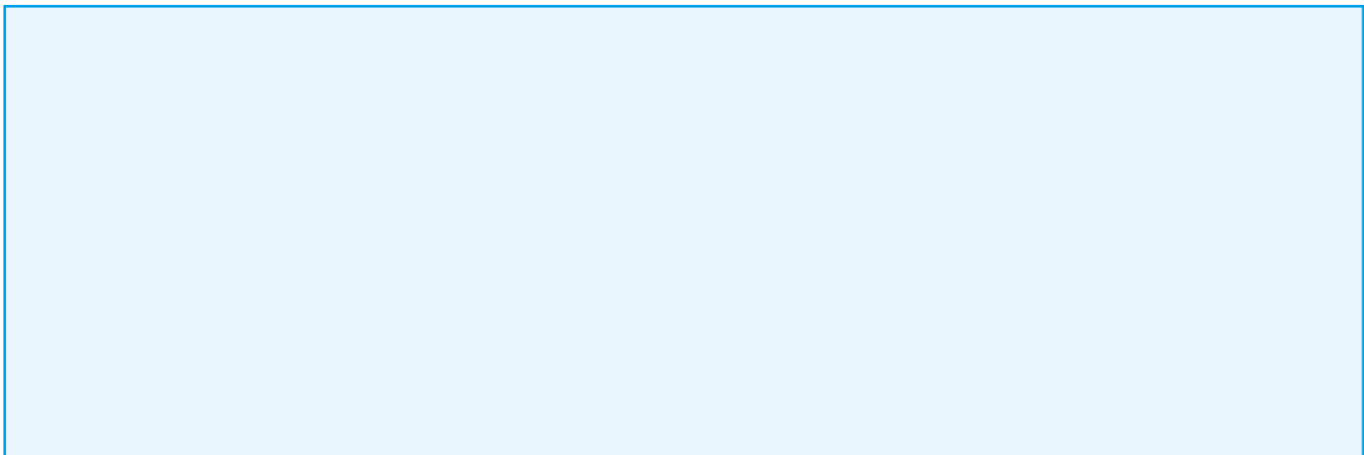
石は思ったより大きく、伝説のように、上で人が寝転ぶことができるぐらいでした。まるでベッドのように思えました。岩の後ろのくぼみも、ベッドに上る階段のようでした。お参りすれば、赤ちゃんの夜泣きが本当におさまるような気がしました。

おさまったといわれています。今でも、赤ちゃんの夜泣きをおさめるために、この石にお参りする人がいるそうです。

【取材を終えて】

成川さんのお話を聞くまで、箕島の歴史についてあまり知りませんでした。知らなかったことを知ることができて、うれしかったです。蓑の形をした昔の箕島の姿を、一度見てみたいですね。また、夜泣き石は、ながめていると本当に夜泣きがおさまるような気がしました。今回の取材を通して、箕島についてもっと知りたいたいと思うようになりました。そして、箕島の歴史を有田市の多くの人たちにも知ってもらいたいです。

広告



龍谷大学生 持ち込み企画

有田市 魅力発見プロジェクト No.9

これまで、おおよそ月1回のペースで有田市を訪れ、さまざまなモノやコトの取材を行い、その魅力を発信してきました。

今回は、学生の皆さんが普段大学のゼミ活動でどのような取組を行っているのかについて紹介し、そしてその取組を有田市の魅力発見プロジェクトに活かすことができないかについて考えてみました。

私たちが勉強してきたことを

有田市の魅力発見プロジェクト No.9
私たちが、龍谷大学政策学部、深尾ゼミナールが月に一度のこの広報紙の一面を書かせてもらうのも、残すところ今回を含めて3回となった。
月に一度は有田市を訪れ、この土地、そして多くの人々と関わらせてもらった。お祭りのお手伝いをしたり、デートスポットを市民の方々に聞き、巡ってみたり…。有田市の特産品であるみかんや太刀魚について調査もした。その中で、有田市の溢れる魅力に気付くことができた。すっかり私たちは有田の魅力にハマり、この地のことを大好きになっていく。お世話になった分を、少しでも有田に還元することはできないか、と考えた私たちはある計画を進めることにした。が、その前に私たち深尾ゼミナールが何をしたい。その前に私たちが何をしたい。



私たちの活動

私たちはNPOに対する研究を専門に学んでおり、有田市の貴重な体験も私たちの学びにつながっている。こうした学びを週に一度ラジオに出演し、発信させてもらっている。他には、チャリティという「飲んでできる社会貢献」をキャッチコピーにお茶を売る取り組みを行っている。この取り組みでは、50円で500ミリリットルのペットボトル一本分のお茶を売り、その50円の売上げを熊本地震の復興支援のためにあてている。そして、特に力を入れて勉強したのがこのチャリティ「チャリティ」を含む「寄付付き商品」だ。



ゼミメンバー

「寄付付き商品」って?

言葉を聞いてピンとこない方が多いでしょう。寄付付き商品というのは、例えば、ボールペンを一本購入するとその売り上げの一部が地域での子どもの学びを応援する活動に充てられるような商品のことを言う。普段日常的に行う「買う」という行動で手軽に気軽に社会貢献活動が出来る。

私たちは、この寄付付き商品について徹底的に調べ、日本における寄付付き商品の実態を学んだ。それらを踏まえて、私たちは寄付付き商品は、とてつもない可能性を秘めているものだと感じた。
そして、今後流行るであろう寄付付き商品の仕組みを利用した企画を行うことで、関わる人みんなを幸せな気持ちにしたいと考える。私たちのそんな願いを込めて、ある企画を導き出した。

有田市と

寄付付き商品のコラボ

そしてたどり着いた答えが『有田みかんを寄付付き商品として販売する!』という企画である。冬といえばみかん。そして有田市の代表的なものであり知名度の高いものといえばやはり有田みかん。寄付付き商品として売り出すにはピタリである。ただ売上金を寄付するのが目的ではない。売る際には、有田市のことを多くの人たちに知ってもらえるように、これまで学んできたことや見つけてきた魅力をとくに発信したい。有田みかんを社会貢献を、その思いを胸にこの企画に取り組んでいきたいと思う。



広告

